地域環境保全功労者功績内容等

県　別	氏名・職業	功　　績
青森県	青森生活学校連絡会 あおもりせいかつがっこうれんらくかい 会長　佐藤　和子 会員数100名	青森生活学校連絡会は、住みよい地域社会を目指し、豊かで安全な暮らしを目標に、活動を始めてから35年になる。同会では活動の１つとして、省資源・省エネルギーを目的とした地域のごみの減量化の活動に積極的に取り組んでいる。 平成３年５月から平成13年３月まで、青森市の分別収集に先駆けて市内全域で牛乳パックの回収を実施し、その益金で10年間にわたり、年間約20本のペースで福祉施設に花木を植樹してきた。なお、余益金115,782円は青森市の植林事業に寄贈した。 また、平成６年度からは古着の回収を実施し、集めた古着はフリーマーケットへの出品、海外の難民への提供及び小物作りの材料として活用している。 更には、マイバッグ運動の一環として、平成19年７月から「レジ袋減らし隊」運動を展開し、レジ袋をもらわない運動を各団体に呼びかけた結果、東北では初、全国では５例目となる、県と県内の主要なスーパーや百貨店等との間における、レジ袋有料化に関する協定の締結につなげることができ、平成21年２月２日から県内の24事業者、231店舗での有料化が行われることとなった。 これらの活動は、地域の住民とのコミュニケーションを図りながら実施されており、同会の活動及び姿勢は、地域の模範となるものである。
岩手県	村上　末子 むらかみ　すえこ 自営業	・平成６年に陸前高田市地域婦人団体協議会会長就任以来現在まで、会員の共通かつ時宜的課題として一貫して環境問題に取り組んでおり、廃食油利用せっけん作り、空き缶回収運動、リサイクルバザー開催、環境家計簿記帳運動などを実践し、定着させた功績は大きい。 ・陸前高田市地域婦人団体協議会会長として率先して地域の環境活動に関わり、その中心的な役割を果たしている（エコネット陸前高田会長、気仙川清流化対策推進協議会理事、気仙川流域基本計画推進協議会委員、けせん菜の花エコネット監事等）。さらに、陸前高田市環境審議会委員として行政へも積極的に意見を述べ、住民の意見を行政に反映させる役割を担っている。 ・個人としては古川沼をきれいにする会理事を務めるなど地域の環境問題に積極的に取り組むほか、平成11年度から現在まで岩手県環境アドバイザーとして、さらに平成13年度～平成18年度まで地球温暖化防止活動推進員として、岩手県内各地で講演会等の講師として人や自然環境にやさしい暮らしのための実践事例の紹介と生き方を見つめ直す呼びかけを行うなど、県内全域にその活動範囲を広げ活躍している。
岩手県	五葉山の自然を守る会 ごようざんのしぜんをまもるかい 有限株式会社　ツカサ介護内（菅原長一郎） 構成員200名	昭和60年の団体設立以降、五葉山楢の木平を中心に、自然林の保全活動を展開。活動内容は、主として、伐採防止による自然林の保護と間伐活動と一般住民から広く参加者を募って年２回の自然観察会を継続して実施している。 平成６年からは、地域の小学生や子供会と連携して、どんぐりを集めて育苗し、平成10年からは育てた苗木を植樹する『どんぐりの森作り』を展開。以降、毎年育苗と植樹活動を継続するとともに、植えた苗の生育状況の確認や下草刈りなどの育樹活動のほか、植樹を行った山の登山道の整備などにも尽力している。 自然観察会等の開催による一般住民の環境保全意識の高揚に貢献するとともに、自ら育苗及び植樹活動に取り組み、足元から地域の環境保全活動を継続的積極的に支えてきた功績は評価に値する。
秋田県	佐藤　敦 さとう　あつし 秋田県立大学名誉教授	平成８年度から、秋田県環境審議会委員として、土壌学、水環境学の専門的見地から審議に加わり、平成１９年度からは同会長として、本県における環境施策の答申をまとめ上げるなど本県の環境行政の推進に大きく貢献している。 また、八郎潟干拓地における土壌と農業についての研究を続けており、現在、当地域の多くの農家で実践されている“水質保全型農業”の礎を築くとともに、富栄養化による水質悪化が問題となっている八郎湖について、平成１４年度から１６年度まで八郎湖水質浄化対策専門家会議座長として、複雑多岐にわたる汚濁機構の解明や浄化対策の検討に携わり、「八郎湖水質保全対策に係る提言書」の取りまとめに尽力した。 特に、平成１８、１９年度には、八郎湖水質保全対策検討専門委員会副委員長として、湖沼水質保全特別措置法に基づく指定湖沼となった八郎湖の「湖沼水質保全計画（第１期）」の策定に貢献した。さらに、平成２０年度からは、八郎湖研究会農業分科会座長として、第１期計画に盛り込まれた対策を効果的に実施するための手法の検討に取り組むなど、本県の環境保全対策の推進に大きな役割を果たしている。

県　別	氏名・職業	功　　績
福島県	水原の自然を守る会 みずはらのしぜんをまもるかい 会長　服部　善明 会員　339名	【活動状況】 ・福島県全体において、特定希少野生動植物に指定されているクマガイソウの群生地の保護育成 ・「クマガイソウまつり」による一般への公開 ・活動を通して、地域の活性化・小学校の総合学習等への貢献 ・群生地及び遊歩道の定期的な整備 【活動地域の範囲】 ・水原地区のクマガイソウ群生地及びその周辺（環境整備） 【功績の内容】 ・特定希少野生動植物に指定されている「クマガイソウ」群生地の保護育成を行い、環境保全の普及啓発活動を行っている。（群生地及び遊歩道の定期的な整備活動、地域での環境保全啓発）
茨城県	美浦村立美浦中学校科学部 みほそんりつみほちゅうがっこうかがくぶ 教諭　高橋竜一 生徒数１０人　教職員数２人	・当部は，霞ヶ浦の美浦村沿岸部の水質や浮遊物，農業廃水の調査を行い，地域の環境学習交流会や，アジア太平洋水交流会で発表するなど，霞ヶ浦の水環境について，国内はもとより世界にも発信し，関心を高めている。また，霞ヶ浦周辺の水質調査を通して，継続した科学体験活動による生徒の科学的資質の向上を図っている。 ・平成１３年の活動では，霞ヶ浦の美浦村沿岸部の水質調査を行い，校内や地域で発表した。 ・平成１４年は，霞ヶ浦流入３河川を調査し，霞ヶ浦の汚染原因のひとつとなっていることを確認した。 ・平成１５年は，霞ヶ浦流入河川の水生生物を調査し，校内や地域で発表した。また，その成果を県作品展に応募した。 ・平成１６年は，農業廃水の霞ヶ浦への影響を調査し，枯葉や鉄による窒素やりんの浄化方法を検討し，地元の文化祭や活動交流会で生徒や一般参加者を前に成果を発表し，新聞や広報誌に取り上げられるなど大きな反響を得た。また，茨城県「体験学習」発表コンクールで研究発表し，茨城県教育賞を受賞した。 ・平成１７年は，霞ヶ浦水中の浮遊物調査を行い，浮遊物の正体や水質の浄化方法の検討を行った。 ・平成１８年は，浮遊物調査から霞ヶ浦の水の白濁を解明し，河川環境管理財団活動事例発表会で発表するほか，新聞に取り上げられた。また，NHK「日本の科学教育」の取材を受け，国内のほか，海外でも放映された。 ・平成１９年には，エビの大量死の原因を調査し，水中の物質の結びつきによって水質が変化するという仮説を立て，その検証に取り組むほか，環境問題等について，地域の人々に聞き取り調査を行った。 ・平成２１年３月には，第３回世界子ども水フォーラムトルコ大会に参加する国内代表６名のうちに生徒が選ばれ，霞ヶ浦をはじめ国内の水問題について発表し，各国からの代表者と協議した。
栃木県	福井　正信 ふくい　まさのぶ ㈱神戸製鋼所真岡製造所　技術部　環境管理室長	【研究開発者としての環境技術開発】 ①酸又はアルカリによる表面処理に関わる技術として、有害物質を用いない表面処理製品の開発を継続的に行い、 その一部を アルミニウム製飲料びん用キャップ材の塗装下地処理として実用化した。 ②塗装に関わる技術として、有機溶剤含有量の少ない水性塗料による塗装製品の開発を継続的に行い、その一部をアルミニウム製飲料缶用蓋材の塗装処理として実用化した。 【公害防止対策】 事業所の環境管理専門管理者として、従来法規及び改正法規への対応を積極的に行い、環境の保全に努めている。 近年は、VOC対策に注力している。 【産業廃棄物対策】 循環型社会の構築に向けて、廃棄物の再資源化及びゼロエミッション活動を推進している。 【栃木県産業環境管理協会事業への参加】 同協会等が主催する環境保全講習会、研修会等に出席し、事業所内の環境保全意識の高揚に努めている。 【化学物質管理】 国内法のみならず、欧州REACH規則への対応等、製品環境品質を保証するという観点からの取組みに主体的な役割を果たしている。 【社会的活動】 地域においても、自治会、ボランティア（鬼怒川河川敷清掃、もおか環境パートナーシッププロジェクトへの参加等）の活動に積極的に参加し貢献している。

県　別	氏名・職業	功　　績
栃木県	佐久間　清敏 さくま　きよとし 社団法人栃木県産業廃棄物協会 会長	1 平成9年7月、さげはし化成株式会社(平成12年7月、日本アグリ株式会社に社名変更)代表取締役に就任し、有機性汚泥や動植物性残さ等のリサイクルに積極的に取り組んでおり、排出者や肥飼料などの利用者へ適切な情報を提供するなど、食品循環資源の有効利用を促進している。 2 これまでの「食品廃棄物の肥料化(再生利用)」業務をもとに、いち早く、食品リサイクル法に基づく再生利用事業者の登録申請を行い、栃木県に於いて第1号の『登録再生利用事業者』になるなど、環境へ負荷を軽減しながら持続的な発展ができる循環型社会の構築を目指し継続的に努力している。 3 平成4年5月、(社)栃木県産業廃棄物協会理事に就任、同時に副会長に選任される。栃木県職員時代に担当した産業廃棄物に関する豊富な行政経験をもって、積極的に協会員の相談に応じ、常に適切なアドバイスを行うなど、会員の育成や業界の資質向上に尽力する他、永きに亘り役員として協会運営の重責を果たしたその功績は大である。 4 平成16年9月、当協会長に就任してからは、会員のみならず産業廃棄物処理業全体として循環型社会の構築及び適正処理を推進するために卓越したリーダーシップを発揮するとともに、排出事業者、行政、地域住民等との協調に努力され、業界に対する信頼性の向上に大きく貢献した。また、(社)全国産業廃棄物連合会の倫理委員会及び法制度対策委員会の委員として会員等に対し、関連法令の周知や遵守の徹底を指導し、業界に対する国民の信頼性を高めることに尽力するなど、産業廃棄物処理業界の健全な発展に尽力した功績は大である。
群馬県	シラネアオイを守る会 しらねあおいをまもるかい 会長　　星野 大吉 会員　約250名	シラネアオイは、１科１属１種の日本固有の花で、かつて日光白根山に多く見られ、花がタチアオイに似ていることからシラネアオイという和名が付けられたといわれている。ところがその名の由来であるはずの日光白根山では、８０年代半ばから動物（ニホンジカと見られる）の食害の影響が現れはじめ、「野の花の女王」と呼ばれ登山者に愛されてきた花は、９０年代以降、激減してしまった。 　シラネアオイを守る会は、こうした状況を憂い対策を検討するため平成６年に開催された「シラネアオイ復元検討委員会」での対策を引き継ぐ形で平成１２年に発足。自然公園指導員や地元自治会、関係団体などを構成員とし、地元高校の協力を得ながら行われるボランティア活動として、シラネアオイの保護育成に取り組んでいる団体である。 　会では発足以来、シラネアオイほかの貴重高山植物等の保護や地域の自然保護思想の普及を目標に掲げ、植生保護柵の設置やシラネアオイの種子採取・播種・育苗・移植など、さまざまな活動を続けてきた。 　特に活動の重点が置かれる弥陀ケ池周辺・座禅山南斜面では、一時は絶滅に近い状態にまでなったシラネアオイが、花群として認められるようになるなど、少しずつではあるが、植生回復の成果が上がっている。 　また、清掃登山や登山者への美化啓発発動により登山道のゴミが減ったことも、同会の挙げられるべき功績である。 　日光白根山は日光国立公園内にあり土地は民間企業の所有である。会では、復元検討委員会からの通算では１５年間、会の発足からは９年間にわたって、国や県、地元片品村はもちろん、特徴的な自然環境学科を持つ群馬県立尾瀬高校、所有者の日本製紙総合開発（株）など広範な関係者の調整役を務めると同時に、リーダーシップを発揮して、難しい自然環境保全の課題解決に取り組んできた。同会のシラネアオイ復元へのひたむきな情熱と協働のお手本ともいうべき地道な取り組みは、顕彰されて多くの人に伝えられ、記憶・記録されるべきと考えられる。
群馬県	箱島ほたる保護の会 はこじまほたるほごのかい 会長　　篠原　好夫 会員　25名	昭和60年に箱島湧水が日本の名水百選に選定されたことを機会に、昔のようにホタルのとびかう自然をとりもどそうと箱島ほたる保護の会が数人の会員により発足し、その後会員を年々増加させ現在に至っている。 　会では、手始めにホタルの保護地を作った。学校やPTAなどの協力を得て、下刈りや河川の清掃などの管理を行い、ホタル保護地も第二、第三と拡大させていった。 　ホタルの発生時になると、会員が交替で毎晩保護地を巡回し、ホタルの個体数や温度や天候などを記録する活動が昭和63年から続けられ貴重な記録となった。 　その他には、会員が講師となり毎年「ホタル学習会」を子供や保護者を集めて開催している他、「あずまのほたる」という小冊子を発行したりと、住民の関心を高めたり深めたりする活動も積極的に行われてきた。 　現在では、関東だけでなく北海道から沖縄まで、見物客が年間で一万人ほどが訪れる。近年は伊香保をはじめ県内温泉地の客も訪ねては「思い出」を作って帰っていくまでになった。 　箱島こどもホタレンジャーの会は、こどもホタルや自然を大事にするような子供を育成しようと当会が声掛けして地域に発足。班編制で運営されるほど参加者が集まり、鑑賞の他、保護地でカワニナやホタルの数を数えたり、ホタル等の昆虫や川、地域の自然、文化など人里のすばらしさを学ぶ活動まで行っており、活動支援も箱島ほたる保護の会が手掛けている。その結果、箱島こどもホタレンジャーの会が作ったレポートは高く評価され、平成19年度には環境大臣表彰を、平成20年度には上位賞の特別賞を受賞した。地域ではこれら活動の報告会も開催され好評をはくした。 　保護の会の活動は、環境保全活動はもちろん、人と小さな生き物が共存する「地域づくり」の柱としても役立っているといってよく、ホタルを通じて環境や自然を保全することの大切さや継続する意志を伝え、環境意識の高い「次世代の人づくり」にも大きく貢献しているところである。

県　別	氏名・職業	功　　績
埼玉県	特定非営利活動法人埼玉森林サポータークラブ緑の森活動チーム さいたましんりんさぽーたーくらぶみどりのもりかつどうちーむ 理事　伊東　喜尋 構成員　50名	狭山丘陵の一部（さいたま緑の森博物館）にて、ボランティアで継続して雑木林の管理を行い、里山景観の保全をしている。活動開始以来、平成２０年度末で７年半、活動回数は延べ１２０回、参加者は延べ２，０５７人、活動場所面積は延べ９．７ｈａである。 活動場所は萌芽更新跡地で、内容は、地拵え、植栽、下刈、除伐、間伐、芽欠き、枝打ち、つる切り、枯損木の処理、林内整理、落ち葉掻き等の雑木林における一連の活動である。 その他にも地元の団体や小学校と連携して環境保全への理解を深める活動を行っている。具体的には平成１７年度から所沢市の「八幡湿地保存会」、入間市宮寺の「榎の会」の方々等とともに所沢市三ヶ島小学校、入間市宮寺小学校の児童を対象に保護者や先生の参加を得て「どんぐりを育てる会」を毎年１１月に実施している。そこでは、どんぐり拾いと播種（ポットに植える）を行い、植えたどんぐりは持って帰って観察できるようにしている他、どんぐりの種類への知識を深めてもらうなどを行っている。また、平成１６年には雑木林の区割り、下刈の意義等環境保全についての体験講座を実施している。
埼玉県	特定非営利活動法人　和光・緑と湧き水の会 わこう・みどりとわきみずのかい 代表理事　高橋　絹世 会員　64名	・ 身近な自然を知り、親しみ、守る活動の継続。 ・ 湧水・緑地等の武蔵野台末端部の特徴的な自然環境を継続的に調査し、現状の把握に努めた。 ・ 市内湧水・緑地（和光樹林公園コナラの森、新倉ふれあいの森、白子湧水群、大坂ふれあいの森）の調査を基にした生態系保全活動の実施。 ・ 埼玉県里の山守市民管理協定制度に認定された「新倉ふれあいの森」の保全活動の実施。 ・ 小中学校の環境学習、地域学習への協力 ・ 市民向け観察会による自然と触れ合う活動の推進。 ・「和光市湧き水と緑地マップ」、「和光の身近な自然探訪」、「白子湧き水ふれあいMAP」、「和光の緑と湧き水」出版、会報VERDAの発行、及び和光市民新報紙への身近な自然への記事連載による一般への広報活動を継続。 ・ 和光市環境づくり市民会議及び和光市緑地保全計画策定委員会への参加による行政への協力。 ・「自然の保全と再生に向けたセミナー」、「日曜地学ハイキングと湧水フォーラムin和光」を開催し保全の関心を高めた。 ・「和光市環境保全功労賞」受賞 ・「第10回さいたま環境賞・県民部門」受賞
千葉県	新藤　静夫 しんどう　しずお 千葉大学名誉教授	地学の専門家として昭和６１年３月から平成１９年３月まで千葉県公害審査会委員として公害紛争の迅速かつ適正な解決に尽力した。さらに、他県においても、神奈川県水質保全対策推進委員会委員、東京都環境影響審議会委員の職を歴任し、環境行政の推進に貢献してきた。 また平成１５年から現在まで、千葉県環境審議会委員、同審議会温泉部会部会長として環境保全施策に関する基本的調査、審議に携わるなど、本県の環境行政の推進にも大いに貢献している。
富山県	鴨川にもサケを呼ぶ会 かもがわにもさけをよぶかい 会長　林　靖太 会員187名	昭和63年の設立以来、21年の長期にわたり、魚津市の中心部を流れる鴨川の清掃や、地元小学生と連携したサケ等（稚魚）の飼育、放流など、地域の水環境の保全及び環境教育の推進に多大な貢献をしている。 サケが回帰する清流をとり戻すことを目標に継続されている本団体の活動や下水道の整備によって、昭和60年代には県内ワースト3に入るほど汚れていた鴨川の水質、美観は著しく改善され（BOD　S60：8.1mg/ℓ→H19：0.9mg/ℓ）、現在では、バイカモが育ちアユやヤマメが群れる清らかな川へと生まれかわっている。本団体の主な活動内容、功績は以下のとおり。 ・設立以来、毎月1回、鴨川の定期清掃を実施するとともに、毎年1回、地域住民や地元企業、関係団体と合同の一斉清掃を実施している。 また、毎年3月にサケの稚魚の放流を実施しているほか、市内の小学校に対して稚魚の飼育、放流に関するノウハウを提供するなど、技術的支援も行っている。 ・会報「清流」（年1回）及びミニ会報「サケ通信」（年3回）を発行し、会の活動状況と併せて生活排水対策や鴨川の水質環境、水生生物の生息状況に関する情報を地域に向けて発信している。 ・環境教育を一層推進するため、県内外の小学校や水環境保全団体と広く交流をもち、研修会等において団体相互の活動報告、意見交換を行っている。（会設立10周年行事「サケに学ぶ環境教育全国サミット」（平成9年11月）、20周年行事「山・森・川・海に学ぶセミナーin魚津」（平成19年8月）） ・これまで鴨川に回帰したサケは累計150匹以上となり、本団体の継続的な水環境保全活動や環境教育活動が評価され、鴨川が未来につなぐ地域のたからもの「とやま未来遺産」に選定されている。

県　別	氏名・職業	功　　績
長野県	須田　荘一郎 すだ　そういちろう 長野市環境美化連合会副会長	平成６年度から、第五地区南石堂町（ＪＲ長野駅前周辺地区）衛生組合副組合長に就任し、同年より長野市で開始したごみの５分別について、行政に協力し町の先頭に立って集積所での分別指導を行った。 平成１０年度から第五地区南石堂町衛生組合長（現 第五地区南石堂町環境美化推進会長）に就任し、地区衛生組織の充実強化に貢献するとともに、引き続きごみの分別指導やごみ集積所の見回り指導を行うなど、地域の環境美化に積極的に取り組み、大きな成果を上げている。 平成１７年度からは第五地区環境美化連合会長に、また平成１８年度からは長野市環境美化連合会副会長として、地域での活動はもとより、長野市全体の環境衛生の向上や衛生組織の強化にも取り組み、その功績は大である。
愛知県	板倉 文忠 いたくら　ふみただ 名城大学理工学部教授 愛知県環境審議会振動部会長	専門の騒音・振動に関する知見を活かし、以下の審議会等の適正な運営に尽力され、環境保全行政の推進に尽力された。 (愛知県環境審議会) 平成５年２月から平成１４年７月までの９年６ヶ月にわたり愛知県環境審議会専門委員に就任し、環境保全に関する専門的な調査・審議をおこなった。また平成１４年８月から平成１６年７月までの２年にわたり、同審議会の委員として審議会の運営に貢献した。さらに平成１６年８月からは同審議会の騒音振動部会長となり、航空機騒音に係る環境基準の類型当てはめ等、騒音・振動に関する専門的事項の審議を行うため部会のとりまとめに尽力している。 (公害審査会) 昭和６３年１１月から平成９年１０月まで９年にわたり、愛知県公害審査会委員として騒音・振動に係る専門的事項の審議に貢献した。
愛知県	今榮　東洋子 いまえ　とよこ 総合科学技術会議議員	専門の化学分野の知見を活かし、以下の審議会等の適正な運営を行い、環境保全行政の推進に尽力された。 （愛知県環境審議会） 平成１０年８月から平成１８年７月まで８年にわたり、愛知県環境審議会の委員として廃棄物関係の専門事項の審査、審議に貢献した。 （公害審査会） 平成１２年１１月から平成１８年１０月まで６年にわたり、愛知県公害審査会委員として悪臭事件等にかかる専門事項の審査、審議に貢献した。 （愛知県環境影響評価審査会） 平成１１年４月に県条例に基づき設置された愛知県環境影響評価審査会では、現在に至るまで、委員として大規模な開発案件における環境影響評価についての審査に貢献している。
京都府	福知山市自然科学協力員会 ふくちやましぜんかがくきょうりょくいんかい 会長　吉井雅宏 構成員21名	昭和５２年福知山市文化会館に開設した自然科学室の運営指導を目的として、動植物・地学等に詳しい小中高教員ＯＢと一般市民等のボランティア１０名からなる「自然科学室運営委員会」として発足し、昭和６０年７月には福知山市児童科学館の開館に伴い、福知山市自然科学協力員会と名称を変更して活動を展開している。 以来、３１年間の活動では、自然科学室の展示物等の企画運営や、一般市民を対象とした自然観察会等を実施し、環境保全の大切さを啓発するほか、水質保全啓発を目的とした由良川などでの水生生物観察会の開催や、大気保全啓発を目的とした星空観察会を開催するなど、環境保全への取組みの功績は大きい。また、福知山市及びその周辺の豊かな自然を調査した報告書を刊行するなど、後世に残る貴重な資料を作成している。さらには、平成１３年に発足した「福知山子どもサイエンスレンジャークラブ」の指導団体として、子どもを対象とした自然科学教育推進への貢献も顕彰に価する。 平成１７年からは、福知山市環境基本計画を推進するためのパートナーシップ組織である「福知山環境会議」に参画し、市の環境施策の推進に大きな役割を果たしていることも特筆すべき点である。

県　別	氏名・職業	功　　績
奈良県	御所市地域婦人団体連絡協議会 ごせしちいきふじんだんたいれんらくきょうぎかい 会長　中島　祐子 構成員　約400名	大和川の支流である葛城川流域において、主婦の立場から環境保全に向けた取り組みを促進するため、洗剤のいらないアクリルたわしの利用促進や、「広がれ輪と和」や「川の教室」といった河川への関心を促す環境イベントの開催、また下流との交流を図る「生活排水交流会」など、行政と協働した地域の環境保全の推進に多大な貢献をされている。 活動開始：平成２年６月 活動人数：約５０名（常時活動の役員・班長等） 活動範囲：葛城川流域を中心に奈良県全域 活動頻度：随時 ・平成２年より奈良県親切美化県民運動実践モデルに指定された御所市環境美化運動に対して、葛城川清掃運動や花いっぱい運動など積極的な取組を進めた結果、葛城川の河川環境の改善や市民の環境保全に対する意識が向上。 ・ 平成２年より青少年健全育成活動の一環として、夏休みの期間を利用し、行政と地域住民が密に協力して様々な催しを行うイベント「広がれ輪と和」を開催。行政と住民、住民と住民が密にふれあう協働事業として、奈良県下で高い評価を得ている。また、「大和川清流ルネッサンス２１計画」に参画以降は、計画の一環として開催している。 ・「大和川清流ルネッサンス２１計画」への参画以来、アクリルたわしづくりを同婦人会の活動事業に取り入れ、奈良県下一円で開かれる環境イベントでアクリルたわし作成講座を年１０回以上行い、その普及啓発に貢献している。併せて、食器のふき取り・三角コーナー・水切りネットの使用等の普及啓発も行っている。 ・平成６年より、リバーウォッチング・水生生物の観察・水質検査などの川や水とふれあうイベント「川の教室」を行い、小中学生の環境保全意識の高揚に寄与している。また、奈良県環境県民フォーラム参画後は、同フォーラムとタイアップして開催している。 ・平成１６年より、大和川の下流にあたる大阪府八尾市の市民団体と生活排水交流会を開催（上流と下流）。水に関する施設見学や水質改善に向けた意見交換などを行い、お互いの理解を深める機会を創出している。
奈良県	特定非営利活動法人エコパートナー２１ えこぱーとなーにじゅういち 代表理事　森　正 構成員　60名	地域社会の中から２１世紀を担う子供を対象に、環境ミュージカルの開催やキャンプ・工作教室などの各種体験教室の実施、また小中学校やこども会を対象とした環境教育プログラムの実施、その他にエコ教材の製作や様々なキャンペーンを行うなど多岐にわたった活動を行い、環境教育の推進に貢献している。 活動開始：平成１年 活動人数：４０名（年間を通じて常時活動メンバー） 活動範囲：奈良県内を中心として近畿圏 活動頻度：毎週 ①環境ミュージカルの開催（平成９年～） 主催のほか機会を捉えて環境フェアや特別養護老人ホーム、シンポジウムなどで開催し、環境問題の認識拡大に貢献。平成１２年からはミュージカル教室MEP21も開校。 ・「モモ」・「ガイア」・「ライトプレイス」・「クレヨン大国はおおさわぎ」・「龍宮のひみつ」・「１２の月の贈り物」・「青い鳥をさがしに」・「オズオズの魔法使い？？」・「笛吹きのゴー太」 ②環境教育プログラムの実施（平成１２～平成１９末時点でのべ２７６教室） 小中学校やこども会に出向き、ケナフ紙すき教室、人形劇や省エネルギー講座などの各種環境教育プログラムを実施し、子ども達の環境保全意識の高揚に寄与。また、大人を対象とした指導者養成講座も実施。 ③体験教室の実施（平成５年～） エコキャンプ、リサイクル工作教室、ケナフの紙すき教室、自然観察会、こどもエコ農園、こども料理教室、こども夏の体験学習、竹とんぼ活動（竹林整備と竹細工づくり）等を行い、環境への関心を高める機会を創出。 ④こどもエコクラブの推進（平成５年～） 体験教室などにこどもエコクラブの参加を促し、こどもエコクラブ同士の交流を図っている。 ⑤エコ教材（冊子、絵本など）の製作（平成１２年～） ミュージカルや環境教育プログラムで活用し、他団体にも教材として提供。 ・『ゆうこちゃんとアカウミガメ』・『地球温暖化ってなあに』・『ケナフと地球』・『地球にやさしいくらし方・省エネルギーのくらし方「生ゴミ編」「水編」』・『お魚さんたちの会議』 ⑥各種キャンペーンの実施（平成４年～） ・「ケナフの花咲かそう１０万本」…ケナフの種を配布。育成を通して、地球にやさしい生き方を考える。 ・「生き物にやさしい川にしよう」…鮎の放流を通じ、生活と水質汚染について考える。 ・「西大寺の町をきれいにしよう」　など

県　別	氏名・職業	功　　績
島根県	大塚　一郎 おおつかいちろう 社団法人島根県産業廃棄物協会理事	平成元年に産業廃棄物処理業の許可を取得、安定型最終処分場として地域の産業廃棄物の適正処理の受け皿となり、平成６年からは建設廃棄物（がれき類）のリサイクル施設を設置、資源の再生利用を推進した。 平成３年の島根県産業廃棄物協会設立に参加し、産業廃棄物の適正処理の推進と業界の資質の向上に尽力してきた。不法投棄防止パトロール及び撤去作業においては島根県東部地区において中心的役割を担い積極的に活動した。 また、平成７年に社団法人島根県産業廃棄物協会の理事に就任と同時に、総務運営委員会の委員長として産業廃棄物経営セミナー・従事者研修会・保健所との懇談会等の各種研修会の開催及び運営に尽力し、廃棄物処理法の解説並びに理解を広めるとともに、産業廃棄物業界全体の資質向上に努め、適正処理と島根県の生活環境の保全に努力した。
島根県	松江市連合婦人会 まつえしれんごうふじんかい 会長　日高妊子 会員　1,776名	環境問題への取り組みは、昭和３８年の美化運動推進のため市内各所に金属製のゴミかごの寄贈から始まり、常に女性、主婦の目線で昭和３０年代、４０年代からすでに広告や過剰包装といった環境問題に取り組み、その後、松江市のごみ処理対策の実践活動推進チームを編成し、３ヶ年計画の活動として資源ごみの回収ルートについて市や業者への申し入れやゴミの減量とリサイクルの必要性を標語として全市的な運動とした。また、牛乳パック回収活動、ごみ減量についての劇の創作上演、資源回収に関する要望書の提出、環境施設見学、講演会の開催、市民活動の輪を広げるため「ごみを語る松江市民のつどい」の事務局、リフォームファッションショーの開催、資源ゴミの分別作業、リサイクルステーションの実態調査と分別指導、「まつえ環境市民会議」参加による環境保全活動の取り組みなどにより、松江市の環境保全活動に多大なる貢献をしている。
岡山県	岡本　輝代志 おかもと　きよし 岡山商科大学学長補佐 岡山県環境審議会廃棄物対策部会長	平成6年発足当時から岡山県環境審議会廃棄物対策部会長として、専門的な見地からの審議や本県における環境施策の答申などに尽力している。 また、平成12年から「岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議」の会長として、廃棄物の発生抑制や再使用及び再生利用の促進に努めている。 さらに、平成14年からは「岡山県グリーン購入対策会議」の会長としてエコ製品の購入利用の促進に積極的に関わり、循環型社会の形成推進に率先して取り組むなど、長年にわたり本県の多岐にわたる環境保全行政の推進に多大な貢献をしている。
広島県	西条・山と水の環境機構 さいじょう・やまとみずのかんきょうきこう 理事長　　石井　泰行 会員数　150名	・西条酒造協会加盟者からの拠出金「西条・山と水の基金」により運営されている団体で，産官学・市民の協働による里山の保全活動に積極的に取組んでいる。 ・平成13年から龍王山憩いの森公園で，小学生対象の環境学習を実施するとともに，憩いの森一帯の水質・水量の定点観測調査や，森林管理の形態が植物群落等へ与える影響などを継続して調査している。 ・西条の水源の山となっている「龍王山憩いの森公園」を拠点に，市民参加による山の手入れ作業や炭焼きを定期的に実施するとともに，小学生や保護者を対象とした炭を利用した水辺環境美化，湧水めぐりや，きき水，炭による浄化作業等の自然観察など，山と水のグランウンドワークを積極的に実施している。 ・なお，平成14年からは，龍王山憩いの森公園の除伐を実施しており，この作業が広島大学の「森林と人間」講座や近畿大学の「東広島学」講座の学生野外実習として認定されている。 ・平成18年度には，第5回 ひろしま「山の日」県民の集い（第30回全国育樹祭記念行事）や他の森林保全活動に積極的に参加するとともに，森林保全活動等への支援事業を行っている。 ・平成18年には，地下水部会を設置し，平成19年から，西条盆地の地下水保全を目的に、地下水の流動・水質の実態把握の調査と研究を岡山大学・広島大学と共同で実施している。 ・これらの活動を通じて，龍王山憩いの森公園の森林保全や清流の環境保全、また地下水の適正利用の働きかけに積極的に取組むとともに，大学生や小学生に森林保全の重要性についての啓発に努めている。

県　別	氏名・職業	功　　績
広島県	広島県立忠海高等学校　科学研究部 ひろしまけんりつ　ただのうみこうとうがっこう　かがくけんきゅうぶ 部長　　西 原　実 香 部員7名	・平成12年から竹原市沿岸及びその周辺を主なフィールドとし，スナメリ，ナメクジウオ，カブトガニといった絶滅の危機に瀕している希少生物の調査・研究に取り組んでいる。 ・また，研究成果を基に，地域の小・中学生やボランティア団体に対して，講演会「エコセミナー」を開催し，環境啓発の活動にも取り組んでいる。 「エコセミナー」では，竹原市沿岸の美しい自然や広島県の絶滅危惧種に指定されている生物が多く生息していることをアピールし，海の環境に関心をもつよう訴えている。 ・科学研究部とボランティアサークルが，平成17年10月に「せとうち海援隊」に認定され，海浜清掃活動に積極的に参加するとともに，生物調査や漂流ゴミの調査に取り組んでいる。 ・平成19年5月からは，科学研究部や生徒会エコ委員会が中心となり，校内の環境マネジメントシステムの構築に取り組んでいる。具体的には，校内の消費電力やゴミの排出量などを継続的にチェックし，その環境負荷を把握して，その環境負荷削減のため手立てを計画し，実行している。特に，ゴミの削減については，平成18年度の排出量が11,713kgであったのに対し，平成19年度は5,598kgと半減させるなど，取組みの成果が表れている。 ・最近は，竹原市賀茂川河口部前浜干潟（ハチの干潟）におけるモニタリング調査（生物調査）の継続実施，「アダプト（里親）制度」による美化活動（学校周辺の海岸），山口市秋穂二島でのカブトガニ生態調査を実施している。
徳島県	キョーエイ本部 きょうえい　ほんぶ 代表取締役社長　埴渕　一夫 社員　約2,300名	キョーエイ本部は、永年にわたり、買い物袋の削減、空き缶等の資源回収、ごみの減量化、簡易包装の推進及びリサイクル活動を積極的に行い、地域の環境保全に貢献し、その実績は顕著である。 ①徳島県エコショップの第一号認定 平成6年にスタートした徳島県エコショップ（資源の節約、リサイクル、環境保全型商品の販売など「環境にやさしい店」として県が認定）の第1号店として先駆的に取組み、永年にわたり地域に多大な貢献を行っている。 ②買い物袋の削減 エコスタンプカードを発行し、マイバック持参者にスタンプを押印する。スタンプカードが貯まったカードはお買い物券として利用できる。また、レジ袋を渡さない取組みも実施している。 ③地域の資源回収 各店舗の店頭において、分別回収ボックス（缶、瓶、トレイ、牛乳パック、乾電池など）を設置し、資源回収を行っている。 ④店舗から出るごみの資源化 店舗から出る油、魚のあら、段ボール、発砲スチロール等を分別し、リサイクルする。 ⑤簡易包装の推進 お中元や贈答品等について、簡易包装の協力を呼びかける。
徳島県	佐那河内村　常会 さなごうちそん　じょうかい 会長　　松尾　肇（佐那河内村長） 現在４７の常会があり、村全体の約９割の世帯が加入している。会長は４７常会長の佐那河内村長。	昭和14年の設立以降、長年にわたる河川清掃活動や道路清掃活動などの地域美化活動に加え、現在まで、常会を主体とした住民主導のごみ分別（33分別）活動により、地域環境の保全に努め、他の模範となる活動を続けている。 ※河川一斉清掃と道路清掃活動については、人口3，000人弱の小さな村で、毎年約800人もの住民が参加して地域美化活動を行っている。具体的には、全村を上げた活動として、河川一斉清掃は毎年4月頃、道路清掃活動は毎年8月頃に各世帯から少なくとも1名は参加し実施。 ※佐那河内村内のゴミ集積所23ヶ所あり、行政から決められた分別数は9分別であったが、村内の新町地区の常会がモデル的にゴミ分別に取り組みを始めた。この住民主導の活動が、行政とのワークショップも重ねることにより、平成16年以降に村全域に広がり、佐那河内村の廃棄物行政を地域で考えるキッカケとなり、その結果、村全体のゴミ分別数は33分別となった。

県　別	氏名・職業	功　　績
福岡県	島田　允堯 しまだのぶたか 九州大学名誉教授	・福岡県南地域地下水汚染原因等検討委員会委員（平成6年6月～平成7年3月） 福岡県南地域地下水汚染原因等検討委員会の副委員長として、福岡県南地域における地下水砒素汚染の原因の究明と、地下水汚染地域での井戸水飲用者への健康影響を調査に尽力した。 ・地下水水銀汚染対策検討委員会検討委員会委員（平成8年11月～平成10年3月） 福岡市及び大野城市における地下水の水銀汚染を受けて設置された地下水水銀汚染対策検討委員会において、副委員長を務め、汚染の原因究明に尽力した。 ・福岡県環境審議会委員（平成9年9月～平成20年11月） 平成9年に福岡県環境保全審議会（現環境審議会）委員に就任し、地質鉱物分野の専門的な見地から環境行政の推進に貢献した。また、平成11年からは環境審議会温泉部会長として、温泉行政の推進に尽力した。その他、公害防止事業費用負担部会委員として、筑紫野市や大牟田市の水質汚染などについての費用負担計画の審議に携わった。 ・筑紫野市の産廃処分場事故調査委員会委員（平成11年10月～現在） 筑紫野市の産廃処分場事故調査委員会委員として、事故原因の究明に尽力するとともに、対策の推進についても貢献している。 ・福岡県公害専門委員（平成12年8月～現在） 福岡県公害専門委員として、公害に係る水質保全に関して専門的な見地から技術的助言を行い、土壌・水質汚染対策に貢献している。 ・福岡県産業廃棄物審議会委員（平成13年4月～現在） 産業廃棄物の処理に関する重要な事項についての調査・審議に携わっている。 ・旧若宮町産業廃棄物不法投棄対応検証委員会（平成16年7月～現在） 旧若宮町産業廃棄物不法投棄事案に係る本県の対応について検証を行うとともに、支障の除去等を実施するにあたっての技術的評価評価に携わった。 上記のとおり、氏は多年にわたって、専門的な見地から本県環境行政の推進に大きく貢献している。その他、北九州市、福岡市、大牟田市など県内各市町村においても、環境保全に関する審議会・委員会の委員を歴任し、環境保全に尽力している。このように、氏の本県環境行政の推進に寄与された功績には多大なるものがあり、表彰に値するものと考える。
福岡県	久留米市女性の会連絡協議会 くるめしじょせいのかいれんらくきょうぎかい 会長　池田　博子 構成員　3,000人	1　河川の浄化活動について 昭和55年から河川の浄化活動として食用油廃油を回収し、石けん作りを始める。現在は、6校区で年間に3回、1回に約600リットルの廃油を回収して、約1，200個の廃油石けんを作っている。その石けんは、公民館やいろいろなイベント等（生涯学習フェスタ、校区の文化際・夏祭り等）で住民に販売するなど、住民との交流を通して廃油石けんや河川の清浄化運動の普及啓発を行っている。また、各家庭の流し台の流し口に、使い古しのストッキング等を利用して、野菜くず等を河川に流さない取組などの普及啓発にも取り組んでいる。 2　マイバッグ運動について 平成12年からごみ減量の推進として、会員全員でマイバッグ運動に取り組んでいる。平成19年6月25日には、行政・消費者団体等と共催して「レジ袋削減宣言行動セレモニー」を開催し、普及啓発に努めている。スーパーマーケット等でマイバッグを持参した場合に押印してもらうカードを会員全員に配付して、レジ袋削減に取り組んでいる。 このように一貫した活動の姿が市民の共感を得、環境の浄化・保全に多大な貢献をしている。

県　別	氏名・職業	功　　績
熊本県	水俣市立水俣病資料館　語り部の会 みなまたしりつみなまたびょうしりょうかん　かたりべのかい 会長　濱元　二徳 構成員13名	水俣病の経験と教訓を広く国内はもとより世界に向けて語り継ぎ、水俣病への理解促進につなげることを目的に、平成11年から入館者や館外の方々に対して講話を行っている。50年以上に及ぶ水俣病の歴史や被害の実態を語り伝えるだけでなく、子どもたちに対しての環境学習として、命の大切さやもやいづくりの大切さなど、生き方を含めたメッセージが発信されており、大きな教育効果を生んでいる。聴講者は、県内はもとより全国そして海外と、年間で2万7千人を数えている。 【活動期間】 7年9ヶ月（平成11年（1999）～平成21年（2009）3月） 【主な活動】 ・水俣市水俣病資料館の語り部室や水俣病情報センターの講堂において、講話を希望する入館者に対して水俣病の経験と教訓について約1時間の講話を行っている。（年間約400回実施） ・NPO法人水俣教育プランニングや水俣病相思社から依頼を受けて、資料館以外でも講話を実施している。 【活動の効果】 ・語り部の話をぜひ聞きたいというのが資料館来館の目的ともなり、水俣病への理解促進につながっている。 ・公害学習が始まる小学5年生を中心に多くの子どもたちが来館し、講話を聞いた子どもたちからたくさんの感想(文)が寄せられている。また、語り聞いたことをもとに創作劇に取り組んだり学習発表会で取り上げたりする学校もあり、多くの教育効果を生んでいる。 【今後の継続性】 ・語り部の会事務局の充実により、語り部の増員、水俣市との連携、他の地域被害者との交流など、会独自の活動推進を企画していく。 ・語り部活動を、環境への取り組みや地域の人々の関係づくり、「環境首都」の称号取得など、地域づくりとも連携させていく。
熊本県	荒尾市女性モニター連合会　あらお凛の会 あらおしじょせいもにたーれんごうかい　あらおりんのかい 会長　坂田　尚子 構成員118名	市民生活に関する諸問題を女性の視点から見つめ直し、行政とともに話し合い、市民が安心して暮らせる協働の町づくりを進めている。荒尾市の紡績工場から出る廃材布を利用した布ぞうりやマットづくり、学校との連携による総合的な学習の時間を使った環境学習及び講演会の実施、各種イベントでの環境問題を考えるポスターや手作り品の展示など、幅広い活動を展開している。行政に対して様々な提言を行いながら、会員は、地域のリーダーとして活躍している。 【活動期間】 17年8ヶ月（平成3年（1991）～平成21年（2009）3月） 【主な活動】 ・自主的な出前講座による環境学習、リサイクル製品作り等の実施 ・行政との連絡を密にした、協働のまちづくり、地球温暖化防止活動への取組み ・学校と連携し、総合学習等の時間を活用した環境学習・啓発活動を実施 ・各種イベント等での環境問題についてのポスターや廃材布を利用した布草履やマットなどの手作り品の展示による市民への啓発活動を実施 ・各会員がそれぞれの地域で独自の活動（古布の再利用、廃傘を利用したマイバッグ作り、地域清掃、花壇作り等）を実施 【活動の効果】 ・行政と協働した講演会の開催等により、ダンボールコンポストの普及に大きく貢献 ・「荒尾市ごみ出しルール読本」の作成に協力、市主催行事・イベント等への積極的な参加による啓発活動の展開 ・市民、企業、行政の協働による「エコパートナーあらお市民会議」の設立に貢献 【今後の継続性】 ・荒尾市のごみ有料化に伴った生ごみの減量化対策、ダンボールコンポストの普及等を進めていく。 ・「あらお環境フェスタ」の開催により、市民へ地球温暖化防止、CO_2削減の啓発を行っていく。 ・行政、事業者、市民が連携し、レジ袋削減やごみを削減する活動を推進していく。

県　別	氏名・職業	功　　績
熊本県	水俣市立水俣第二中学校 みなまたしりつみなまただいにちゅうがっこう 校長　淵上　正信 生徒数155名	学校版環境ISOを基盤として、独自の取組を実践している。「もったいないの心」「やってみようの心」「広めようの心」の3つの心の育成を環境教育の柱に据え、ISOチェッククラスマッチ、学校独自の環境検定、環境ISOマークの募集・設定など、生徒主体の活動を行っており、地域の分別作業への生徒参加や、静岡県三島市の中学校と環境学習交流会を開催など幅広い交流を行っている。 【主な活動】 ①ISOチェッククラスマッチ・・・環境委員会を中心とした生徒会活動。毎年度の宣言項目を見直し、重点項目を設定、計28の行動チェックを実施している。毎週金曜日に4点満点で自己評価を行い、クラス集計を行いクラス順位を決定する。 ②校内ゴミ分別収集・・・・・・・・各教室に3つのゴミ箱（燃えるゴミ・廃プラ・リサイクル紙）を設置、収集したゴミはリサイクルステーションに持ち込み、環境委員会で分別チェックを行っている。 ③環境検定・・・・・・・・・・・・・学校独自の環境検定を年2回実施している。環境基礎問題（地球温暖化・水俣病問題・生態系等）20問、自己行動問題（環境ISO宣言項目の自己評価）20問の計40問を環境委員会が作成し、クラスマッチ形式で朝自習や家庭学習で取組んでいる。 ④地域ゴミ分別収集活動・・・・・・水俣市が実施しているゴミの22分別を毎月1回各地区のゴミステーション（校区内には32ステーションが存在）で分別収集を10年間行っている。毎月1回昼休みに地区毎にステーションリーダーを中心に打合せが行われ、放課後に部活よりも優先して分別活動しており、生徒と地域の人々との交流の場にもなっている。 ⑤環境学習交流会・・・・・・・・・・静岡県三島市の中学校との交流を実施（平成19年度まで毎年度実施）し、それぞれの学校の特徴的な取組を発表しあうことで、お互いの良さを知り、自校の活動を見直す機会としてきた。 ⑥こどもエコクラブ活動（ISOマーク設定、壁新聞作成）・・・環境ISO宣言行動の日常化・意識化を図るため、全校生徒からマークの募集、投票、決定を行い、電灯のスイッチ・水道の蛇口・分別箱等に貼っている。また、こどもエコクラブの壁新聞コンクールに毎年度参加し、最優秀賞を受賞（H19）した。
大分県	森と遊ぶ会 もりとあそぶかい 葛城　啓子	「森と遊ぶ会」は1983年大分市田尻小学校のお母さんと教師でつくる「うりんこの会」として発足した。その後1985年6月「森と遊ぶ会」となり、現在は月1回第3日曜日に西寒多神社、柞原神社、護国神社の森、霊山、高尾山など身近な自然を対象とした定例観察会を実施している。 多年にわたる自然観察会の開催を通じて、地域の自然環境保全や自然保護教育の普及啓発活動を行うとともに、自然観察会の参加者の中から指導員を養成するなど、地域環境保全活動に尽力している。さらに、大分市の小学校で行われている「ふれあい体験教室」に講師（指導員）を派遣するなど、環境教育に積極的に取り組む功績は大なるものがある。
宮崎県	高鍋湿原保全会 たかなべしつげんほぜんかい 会長　池田　たえ子 構成員　11名	宮崎県高鍋町に存する高鍋湿原は、昭和30年代後半から40年代にかけ行われた防災ダム工事で表土を削られた所に周辺の林や沢から水が流れ込んで湿原となったもので、公園化され平成10年に初めて一般公開。希少野生動植物の宮崎県版レッドリストにも掲載されているサギソウやハッチョウトンボをはじめ、貴重かつ多様な植物や昆虫を観察できる。 本団体は、自分たちが誇りにする自然環境を保全し、次代を担う子どもたちに伝えていくことを目的に、高鍋湿原の保全活動をボランティアで行っている。 設立は平成11年であるが、設立前の昭和57年から有志で自発的に湿原保全の取組を開始した。 約3万㎡にわたる湿原保全のために、年間（約200日）を通して草刈作業等の環境整備や動植物の観察及び記録を行っており、3月～10月の開園期間には、来園者に対して湿原内のガイドを行っている。 また、平成19年度以降毎年、高鍋湿原ボランティアガイド養成講座を開催し、湿原の維持管理やガイド等のボランティアの発掘・養成に尽力している。 その他、県・町主催の講演会や講座の講師を務めるなど、高鍋湿原の重要性についての啓発活動にも積極的に取り組んでいるほか、地域の子どもたちに対して湿原に生息する水生生物等の観察を通して、自然環境保護の大切さを啓発するなど、子どもたちへの環境教育も推進している。
鹿児島県	染川　周郎 そめかわ　しゅうろう 鹿児島県公害審査会会長	平成9年12月に鹿児島県公害審査会委員に就任し、平成15年12月からは鹿児島県公害審査会会長に就任して以来、会の運営に尽力されている。また、実際に公害紛争に関する調停等を行う調停委員会委員長として、公害調停の円滑な実施に尽力されている。 平成16年度に市営住宅建設工事に伴う騒音・振動及び地下水の被害に対する損害賠償請求、平成18年度に土壌汚染に伴う土壌改良に対する損害賠償請求と工事中止の請求、また、事業活動に伴う騒音・振動に対する損害賠償請求についての調停申請等について調停委員会や調停期日の進行はもとより、調停案の取りまとめなど、大変御尽力いただいており、本県の環境行政の推進に多大なる貢献がある。

県　別	氏名・職業	功　　績
鹿児島県	柳川　民夫 やながわ　たみお 元鹿児島県環境生活部参事	昭和46年入庁から昭和56年まで、鹿児島県の環境行政の発足時に水環境行政の推進に精力的に励み基礎を築くとともに、志布志湾大規模開発に係る環境アセスメントに携わり、水質調査、水質汚濁予測解析などを通じて、志布志湾の水環境保全に寄与した。昭和57年から平成6年まで、当時水質悪化が進行しつつあった池田湖水質管理計画の策定や改訂に中心となって携わり、平成12年から平成17年までは、閉鎖性水域で富栄養化が懸念される鹿児島湾の水質環境管理計画である第4期鹿児島湾ブルー計画について基礎調査から策定まで陣頭指揮するなど、総合的な水質保全対策の推進に貢献した。 また、汚濁負荷量削減のために産業界への働きかけや、県民への水環境保全意識の高揚を目的としたキャンペーンやセミナー、水環境学習会を実施するなど水環境保全活動を精力的に行い、県民の水環境保全意識の向上にも多大な成果が認められる。
仙台市	江成　敬次郎 えなり　けいじろう 東北工業大学教授	仙台市広瀬川清流保全審議会、仙台市環境影響評価審査会、仙台市廃棄物処理施設設置等調整委員会及び広瀬川創生プラン策定推進協議会委員として、永年にわたり、仙台市の環境行政の推進に多大の貢献をした。 特に、仙台市環境影響評価審査会の設置当時から副会長を務め環境影響評価に係る技術指針の作成に尽力され、また、平成19年から審査会の会長として環境影響評価図書の審査に指導的役割を果たすなど、仙台市の環境影響評価の推進に貢献をした。
横浜市	金沢八景－東京湾アマモ場再生会議 かなざわはっけい　とうきょうわんあまもばさいせいかいぎ 塩田　肇 構成員　50名	市民活動団体、大学・研究機関、学校、漁協、国・県・市などさまざまな主体が連携し、アマモ場の再生活動を通じて、東京湾の自然再生に貢献する活動を実践している。 ①年間を通じてのアマモ場再生活動（花枝採取、種子選別、苗床づくり、播種、苗移植、生育のモニタリング）の実践 ②金沢区内の小学校への出前授業の実施4～5回／年。大学、高校、小・中学生が集まって「海の学習会」を開催 ③横浜市漁業協同組合柴支所との協力により、アマモ場再生報告会の開催 ④活動の成果を一般市民や全国の活動団体に報告するために「横浜海の森つくりフォーラム」を毎年開催（5回）。この中で、アマモサミットプレワークショップ、国際ワークショップなども行った。 【平成20年度横浜環境活動賞を受賞しての感想から】 「金沢八景-東京湾アマモ場再生会議」は、横浜のダイバー達が2000年頃から始めたアマモ場の再生活動を、いろいろなセクター（市民活動団体、大学・研究機関、学校、漁協、企業、国・県・市、個人など）が連携してさらに活発に進めるために発足しました。公的機関による事業として実施されるアマモ場再生に連携して、「再生会議」はソフト面で協働しています。私たちは「海辺のまちづくり」の視点でいろいろな活動を展開していますが、より多くの市民が海辺に対して親近感をもって貰うことが一番大切であると考えています。子ども達には、小学校での出前授業、横浜市立大学キャンパスでの海の学習会などによって、海とそこに住む生き物たちについての基礎的な知識を身に付けて貰い、アマモの花枝採取から始まるアマモ場再生のための一連の実践的な活動に参加して貰っています。 私たちの活動が実を結び、海の公園と野島海岸のアマモ場は復活して多くの小さな命が戻ってきました。これは、今まで参加してくれた子ども達や市民の皆さんの努力の成果ですが、自然条件が幸いしたことも無視できません。 今後はどのように維持管理を行うか、また、環境急変のリスクにどのように対応するかが課題であると考えています。

県　別	氏名・職業	功　　績
横浜市	大曽根の自然を楽しむ会 おおそねのしぜんをたのしむかい 村岡　良介 構成員　56名	子どもたちを外に連れ出し、身近な自然の存在や魅力を伝え、環境に対する理解と郷土愛を育むことを趣旨として、2001年から延べ108回 の活動を続けています。 ① 定例活動として、毎月１回、大曽根地域の鶴見川河川敷、大曽根公園、太尾見晴らしの丘公園等をフィールドとして、四季折々に、自然観察や自然素材を使った遊びと工作を楽しんでいます。 ② 特別企画として鶴見川源流・河口探検、ホタル観賞、キャンプ、芋掘り、クリスマス会、もちつき会等のイベントを行っています。 ③その他、大曽根小学校主催「大曽根フェスティバル」、横浜市主催「環境ボランティア参観日」などへの参加、協力をしています。 【平成20年度横浜環境活動賞を受賞しての感想から】 子どもたちに「オ（O）ソ（So）ト（To）に出よう！」と呼びかけます。外に出て、大曽根（Osone）の自然（Sizen）を楽しむ（Tanosimu）。だから“OST”なんです。 大曽根地域は、鶴見川と大倉山に囲まれ、豊かな自然があります。まず外に出ましょう！足下を見ても、空を見上げても、きっと発見があります。五感を使って覚える快感。自然と触れ合う心地よさ。体験する楽しさ。生き物に接していると気持ちが優しくなります。自然の大切さを知り、環境問題の意味を学ぶでしょう。 野山を探検し、川で遊び、泥だらけになったり、ずぶ濡れになったり、みんなが持っている子どもの頃の思い出。自然の中ではおとなも子どもも無邪気です。楽しかった共通の記憶は、郷土愛を育むでしょう。 私たちOSTの世話人一同は、そんな思いを持って6年余り活動を続けてまいりました。この間、大曽根小学校、同校PTAの理解と支援をいただき、大曽根地域の皆様の協力に支えられ、延べ200人を超える子どもたちがOSTのメンバーとなり、巣立っていきました。 OSTは、今後も活動を続けます。成長したかつてのメンバーが加わり、地域の方々とネットワークを広げながら、次の世代の子どもたちに大曽根の自然を案内し、地域の魅力を伝え続けます。
横浜市	横浜野菜推進委員会 よこはまやさいすいしんいいんかい 椿　直樹 構成員　22人	”食卓から環境問題を考えよう！”をコンセプトに環境教育を通して、地産地消及び食育を推進する活動を目的とする団体で、料理人、青果業者、管理栄養士の3者が核となって平成15年10月に発足しました。調理のエキスパートだけではなく、流通や栄養学の専門家もメンバーとして活動していることから、単なる料理教室ではなく、様々な角度から環境教育活動を行えることが最大の特長となっています。 現在では、地元の生産地見学、収穫体験、地元野菜と輸入野菜の食べ比べなどを行う環境教育や行政による地産地消プロジェクトの講師、横浜市が委嘱する保健活動推進員等への指導など、幅広い活動を行っています。 （主な活動実績） ①地元の農地や養豚場などの生産地見学、収穫体験、地元野菜と輸入野菜の食べ比べ、料理教室などを行う親子向けの環境教育「味覚塾」を年3回程度実施 ②主に主婦・働く女性を対象として、地場野菜と輸入野菜の食べ比べ、収穫直後の野菜と収穫して日数が経過した野菜の食べ比べ、市内の生産者の講演、地場野菜を使った料理教室、食の安全や環境問題の講座などを年4回実施 ③横浜市内の各区や川崎市で行政による地産地消プロジェクトや教育講座の講師 ④よこはま地産地消フォーラムで、企画員として企画提案に参加するほか、パネリスト等として活動などを紹介 横浜における市民（消費者）と地元生産者とのパイプづくりやネットワークの拡大による地産地消のより一層の推進が期待できること、また近年、冷凍餃子問題や汚染米偽装事件などにより食に関する安全、安心が揺らぎ、食料自給率も40%を割りこむなど、課題も多様化している状況のなかで、食育という環境教育の切り口で地産地消を推進するというアプローチは、非常に先駆性のある環境活動といえる。 【平成19年度横浜環境活動賞を受賞しての感想から】 早いもので、この会を立ち上げて4年になります。当初はたった2人の料理人の思いつきからスタートした会でしたが、現在では22名もの同士が集まり、各々「食」のスペシャリストとして存分に力を発揮してくれています。ですが、まだまだ理念でもある地場野菜の普及や地産地消の推進には我々だけでは力不足な点もあり、満足の行く結果が残せていません。この受賞を機に、今後も広く市民の力を借りながらこれらの普及に、さらに力を注いでいきたいと思います。

県　別	氏名・職業	功　　績
名古屋市	中村　正秋 なかむら　まさあき 名古屋大学名誉教授	平成11年6月、名古屋市環境影響評価条例に基づく環境影響評価審査会委員にご就任以来、環境影響評価等に関する技術的又は専門的事項について調査審議を行うなど、本市の環境アセスメントの推進にご尽力いただいている。 現在、条例に基づく環境影響評価審査会委員として6期目（任期:平成21年2月1日～23年1月31日)を迎え、その専門分野（資源・環境学）の観点から、貴重な意見を述べていただいており、また、平成15年から平成17年は、同審査会の会長として会を統理するなど、多年にわたり本市環境行政の推進に多大な協力をいただいている。
京都市	京都市立常磐野小学校 きょうとしりつときわのしょうがっこう 校長　山田　清隆 735名（児童・教諭等）	「地球にやさしい常磐野校」を目指して，環境教育を重点的に，様々な取組を実践している。 主な取組実績は以下のとおり。 ①学校全体における年間を通じた環境活動年間計画の策定及び取組成果を発表する環境フェスティバルの実施 ②学校全体で取り組む京都市独自の「学校版環境マネジメントシステム（KES学校版）の認定 ③環境保全に向けた児童会・委員会活動の実施 ④児童・保護者がともに環境について考え行動する「こどもエコライフチャレンジ」を先行実施 ⑤緑のカーテン（壁面緑化）の取組 ⑥地域と連携したビオトープの整備 ⑦一人一鉢の花いっぱい運動の実施　など ⑧雨水タンクの活用，風力発電装置の活用，節水機器の設置，電力監視測定機器の設置
京都市	京都市立修学院中学校 きょうとしりつしゅうがくいんちゅうがっこう 校長　長者　善高 生徒数629名　教職員数48名	1　生徒会を中心に，アルミ缶を回収しその収益金を寄付したり，使わない文房具をフィリピンの貧困地に送付するなど，国際活動に生かすとともに，資源のリサイクルに取り組んでいる。（平成14年から） 2　生徒・教職員と地域住民が協力しての合同清掃活動（クリーンキャンペーン）の実施。 3　自校で推進しているアントレプレナー教育（起業家教育）の中で，リサイクルできる廃品の回収・製作・PR活動・販売までの活動を生徒自身が行い，その物品をバザー形式で販売するといった「環境にやさしい商品開発」の取組を実施。（平成14年から） 4　風力発電を設置し，自然環境や自然エネルギーについて学習している。（平成18年から） 5　京都市では，独自に環境マネージメントシステム・スタンダード「KES」を策定しており，学校においても「KES学校版」を策定。修学院中学校においては，平成17年度から認証取得に向け，KES規格に沿った節電や節水等の取組及び環境教育の充実等を行い，生徒自らが考え行動し，実践から環境の大切さを学ぶ取組を推進しており，平成18年度以降，「NPO法人環境機構」による審査を経た認定を受けている。
堺市	大阪府立大学　環境部エコロ助 おおさかふりつだいがく　かんきょうぶえころすけ 代表　　川崎　翼 構成員　約150名	● 主に堺市との連携による環境啓発活動の取組み 平成17年度より、堺市との協働によりヒートアイランド対策啓発イベントとして「SAKAI打ち水フェスタ」を企画・運営。また同年より「堺まつり」にも参画、環境啓発パレードやその後のごみ拾い、年度によっては前夜祭での環境行動PR公演、ステージでの啓発ショーなど様々な取組みを実施。堺市の環境行政、特に地球温暖化対策及びヒートアイランド対策の普及啓発に多大なる功績を残している。 ● 多様な主体との連携による多面的な環境教育・啓発の展開 堺市以外においても、別紙資料「主な活動の履歴」の通り、地域団体や公共施設、民間団体、企業等様々な主体と積極的に連携し、啓発対象に応じた様々なメニューによる多面的な環境教育・啓発活動を展開。これまでの啓発総人数は5,000人を超える。 ● 地球戦隊「エコレンジャー」を核とした環境教育の展開 特に子どもを対象とした環境教育において、エコロ助の活動の最大の特色が「地球戦隊エコレンジャー」である。地球温暖化、ヒートアイランド現象、ごみ問題、地産地消、食育など、場面に応じて様々なテーマでシナリオを作成、部員扮するエコレンジャーのSHOWにより楽しく環境問題について教え、一人ひとりができることを伝えるもので、子どもたちに大人気のメニューである。 ● マスコミ出演及び表彰履歴 多様な主体との連携による多面的な活動が注目され、テレビ・新聞等にも何度も取り上げられており、啓発効果を高めている。また、その功績が認められ、平成20年度「おおさか環境賞」の市民活動部門の大賞を受賞、平成21年度には「堺市環境活動表彰」の受賞が内定しており、現在表彰式を待つ状態である。

県　別	氏名・職業	功　　績
神戸市	武田　義明 たけだ　よしあき 神戸大学大学院　人間発達環境学研究科教授	神戸に生息する生きもの全般について造詣が深く神戸市の生物多様性について、非常に高い見識を持たれており、多年にわたり、神戸市の環境影響評価制度における審査機関である、神戸市環境影響評価審査会の委員として、主に自然環境の分野を中心として、厳正な調査審議に尽力をされている。 さらに、実際の事業実施による環境影響についての審議のみならず、市における環境アセスメントの技術・精度の向上のため、環境影響評価技術指針の改正や、自然環境から地球温暖化まで、各種アセスメントマニュアルの作成にもご尽力をいただいている。 また、身近な生きもの調査など、一般市民や小中学生による調査、環境学習の普及啓発等にもご理解があり、自身も東おたふく山ススキ草原復元活動をはじめ、研究室外での実践的活動にも経験が豊富である。 これらの環境問題に関する深い理解と幅広い学識をもとに、本市の環境行政に対しても有益かつ、先見的な助言をいただいており、平成20年度には「守りたい神戸の生きもの百選」選定委員長として、選定方法から百選のとりまとめまで、中心的にご指導いただいている。
北九州市	特定非営利活動法人北九州ビオトープ・ネットワーク研究会 とくていひえいりかつどうほうじんきたきゅうしゅうびおとーぷねっとわーくけんきゅうかい ＤＥＷＡＮＣＫＥＲ　ＢＡＲＴ　ＪＵＬＩＥＮ （デワンカーバートジュリエン） 構成員　22名	地域社会及びその市民に対して、豊かな環境の整備のために都市において自然と人間が共存できるビオトープの考え方を基本とし、ビオトープの保全及び創造に関する市民参加型のイベントの実施、研究・調査等を行い、それらを発信していくことによってビオトープ・ネットワークを構築することを目的として平成１３年７月に設立し、平成１５年６月にはその活動を発展させるため、NPO法人化したもの。 1. 洞海湾干潟の清掃による貴重種保護など水辺の保全活動 2. 放置により周囲の里山を侵食する竹林の伐採による里山保全と伐材の利活用 3. 小学生とその保護者を対象とした有機栽培稲の田植え、稲刈や田んぼの生きもの調査など田んぼでの総合的な環境学習 4. 洞海湾と遠賀川をつなぐ江川を市民に愛される川にするための清掃活動や、川面から河川環境を見つめるカヌー下りなど、多様の世代が気軽に参加できる様々な体験型の活動を行っている また、活動写真展やシンポジウムの開催により、参加者以外の市民にもこれらを広く情報発信することにより、環境教育等、市民の環境に対する意識を高める他、地域独自のお祭りなど文化の創造・継承にも取り組んでおり、地域社会への環境保全に対する功績は大きい。 平成２０年度福岡県環境保全功労者知事表彰受賞
北海道事務所	藤田　郁男 ふじた　いくお 環境学習フォーラム北海道　代表	●1976年から1994年の間、苫小牧市自然環境審議会委員を務め、ウトナイ湖の鳥獣保護区指定に当たっての保全調査に貢献した。 ●1994年にJICAからフィリピン大学に専門家として派遣された際、東南アジアで初めてとなる環境の教科書（現在も開発途上国において使われている。）を執筆した。 ●環境省北海道環境パートナーシップオフィス（北海道EPO）の設立に当たり、平成17年の北海道EPO整備運営検討会の座長を務め、北海道EPOの設立に尽力している。その後も、北海道EPO運営評議会（平成18年～平成19年）、北海道EPO運営協議会（平成20年～）の委員を務め、北海道EPOの運営に対し助言・協力、多大な貢献をしている。 ●平成18年度から平成21年度の間、環境教育リーダー研修基礎講座検討会の委員として、研修方法・内容に関する助言を行い、環境教育・環境学習の推進に協力、多大な貢献をしている。 ●平成１３年度から現在に至るまで、北海道地方環境事務所（平成17年９月までは北海道地区環境対策調査官事務所）に駐在し、相環境保全活動のアドバイスや相談に協力している。

県　別	氏名・職業	功　　績
関東事務所	下城　茂夫 しもじょう　しげお 環境カウンセラーズぐんま顧問	1．青少年への意識啓発の功績 自身は大学時代の尾瀬ハイキングをきっかけに環境に関心を持つようになった。その原体験を踏まえ、人々の環境への関心を高めるためには、幼少期・青年期における自然体験が重要であると考え、尾瀬での自然ガイドやサケの孵化飼育放流事業等を通じて子どもや青少年の目を生き物や自然に向ける活動を継続してきた。また、最近はふるさとの山・赤城山を自然体験・環境教育の場として活かすための赤城自然塾のプロジェクトに準備段階から関わり、その設立に貢献するとともに、副代表として活動の先頭に立っている。 2．各種活動団体の連携強化・活性化への功績 尾瀬の自然を守る会を皮切りに、自然保護や環境保全に関わる多くの市民活動団体に参加し、団体内で指導的役割を果たすとともに、人的ネットワークを駆使して関連する各種活動団体同士をつなぎ、連携強化や活性化を図ってきた。具体的には、群馬県環境アドバイザー、環境カウンセラー、地球温暖化防止活動推進員などの連携推進や、粕川流域ネットワークの設立、赤城自然塾の設立などに果たした役割は顕著である。 3．行政との協働（パートナーシップづくり）の功績 行政と住民との関係は、形式的な住民参加（行政提案の追認）となるか、逆に住民からの一方的な批判・要求などに偏る傾向があるが、男井戸川・川づくり懇談会や伊勢崎市環境づくり会議において、座長・会長として住民の意思・意欲を引き出すとともに、建設的な提言書としてまとめ、行政施策に反映させた。また、現在も伊勢崎市及び群馬県環境審議会公募委員として、毎回具体的かつ建設的な質問や意見を述べ、環境行政の推進に貢献している。
関東事務所	有馬　富穂 ありま　とみほ 学校法人有馬学園事務長	平成9年環境カウンセラーに登録以来、県公害審査会委員や八千代市環境保全計画推進会議会長、県及び市の環境モニター等として、地域の環境保全に係る指導、普及・啓発に努めるなど環境保全の推進役として率先垂範している。 また、化学物質アドバイザー、千葉県地球温暖化防止活動推進員、エコアクション21 審査人としても環境保全活動に尽力している。平成19年度千葉県環境賞を受賞。八千代市のエコアクション21認証取得（平成21年4月、千葉県で最初）に多大の貢献。 ・環境カウンセラー登録：平成9年4月1日 ・八千代市環境モニター委嘱：平成9年4月1日～平成12年3月31日 講師：八千代市21世紀懇談会「市の環境問題について」平成9年11月25日 ・千葉県環境モニター委嘱：平成10年4月1日～平成13年3月31日 ・八千代市環境保全課嘱託勤務（市環境保全計画の策定） 平成10年5月18日～平成11年3月31日 ・八千代市環境保全課嘱託勤務（地球温暖化防止に向けた「八千代市率先実行計画の策定」） 平成12年6月1日～平成12年11月30日 ・環境カウンセラー千葉県協議会の設立：平成10年2月8日　副会長として設立に貢献 http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm　協議会のHP、有馬作成 ・第1回企業環境セミナーを企画・主催（平成10年10月）、　現在、NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会顧問 ・千葉県公害審査会委員の委嘱：平成13年4月1日～平成22年3月31日（3期） ・八千代市環境保全計画推進会議委員（会長）の委嘱：平成13年4月1日～平成23年3月31日 ・化学物質アドバイザーの登録：平成15年8月 （http://www.env.go.jp/chemi/communication/taiwa/index.html　リストあり） ・エコアクション21審査人登録：平成17年4月1日　→コンサル及び審査の実績多数 http://www.ea21-ckz.jp/index.htm　EA21千葉県地域事務局のHP、有馬作成 ・千葉県地球温暖化防止活動推進員の委嘱：平成13年4月1日～平成21年3月31日　4期 ・エコライフやちよ（八千代市在住の推進員）設立、事務局長：平成18年8月1日 http://blogs.yahoo.co.jp/fujikazu32000　有馬作成ブログ ・八千代環境市民連絡会事務局長　平成14年5月～ http://www.geocities.jp/kankyosimin/　有馬作成HP

県　別	氏名・職業	功　　績
関東事務所	野口　久 のぐち　ひさし 環境カウンセラー（事業者部門）	1．多年環境行政の推進に協力（実施要領 3-③関連） 昨年12月22日に「千葉県環境功労者知事感謝状」を授賞。 その理由は主として、別紙（1）（行政及び業界団体への参画履歴）に示す通り、野田市環境審議会委員（16年）、千葉県環境審議会委員（8年）をはじめ、多くの環境関係の委員を委嘱され、大きな役割を果たした功績によるもの。長年任命を頂いたのは、各審議会や、各種委員会での発言や提言の適切性、妥当性が評価された結果である。日頃から環境問題に興味をもち、常に新しい知識や技術の吸収に努め（別紙「環境及び品質に関する資格等」）た努力を高く評価する。 公害問題から地球環境問題へと大きくシフトした時代背景のなかで、氏なりの意見や施策を提案し、地域行政や地域の環境保全向上に貢献。 2．多年環境保全に関し普及啓発活動、その他公共的活動の実施（実施要領 3-①関連） NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会(EC千葉）及び社団法人日本能率協会に所属し、ISO14001の普及啓発や多くの企業へのISO14001認証取得支援・指導を12年以上行っている。 特に千葉商工会議所とEC千葉の共催で実施している「ISO内部環境監査員養成講座」の講師を担当しているが、受講生からは「非常に分かりやすく、実践的である」との評価を得、リピート率の高い講座になっている。 今後とも、ISO14001、ｴｺｱｸｼｮﾝ21を始め、地域の自然保護活動や地球温暖化防止対策への貢献が期待できる。
関東事務所	燦クリーン株式会社 さんくりーんかぶしきかいしゃ 代表取締役　小肥　博 構成員8名	NPO法人埼玉環境ｶｳﾝｾﾗｰ協会における事務局としての役割を設立当初から担い、関東連絡会と全国連合会の設立に従事する。NPO法人埼玉環境ｶｳﾝｾﾗｰ協会では講習会の開催、講師派遣、審議会等への参加などを行っている。 地域の環境保全情報の拠点となるとともに、地域住民の環境に対する意識向上を図るため、1996年から「環境保全」をテーマに外部講師を招いて研修会を毎年実施。会場として会社の会議室を提供するほか参加料を無料とするなどして地域に開かれた研修会を目指し、環境保全のための市民・事業者・行政によるﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟを推進している。 大学生への環境保全教育の一環として、2004年からｲﾝﾀｰｼｯﾌﾟを毎夏1週間程度開催。外部から講師を招き、環境に対して興味を深め、環境保全意識の向上につながる内容を盛り込んで実施している。
関東事務所	南　孝彦 みなみ　たかひこ 環境教育普及啓蒙 デザイナー	（「虫メガネ研究所」について） 1．氏は、幼少よりベランダビオトープ作りを手がけ、これをベースに「ビオトープから自然を考える」をコンセプトとしてネットワークを広げ、平成10年4月からWEBサイト「虫メガネ研究所」を開設した。このサイトを通じ、保育園の先生や保護者等にベランダビオトープの作り方を教えるなど生き物と共生できる自然環境作りを提唱し、環境教育の普及啓蒙に尽力している。 （「蝶の道プロジェクト」について） 2．氏は、各地に蝶の食草園作りを進めているが、平成19年4月から、品川区をモデルとした「蝶の道プロジェクト」（品川区との共同事業）として、区内の保育園、小中学校を中心に31箇所の蝶の食草園を作り、蝶の飛来する街作りを行い「人間と昆虫との共生」、「生態系の再生」に尽力している。 また、蝶の道プロジェクトに併せた自然観察会（蝶の観察、学校のプールのヤゴの救出作戦、蝶の食草園と併せて作ったビオトープ観察会等）を通じ、「生き物の棲める環境を考える環境教育」に尽力している。 （氏の活動に係る講演・取材） 3．氏は、各地の学校や団体向けに講演会を行っているほか取材や自身の著作物を通じて、多方面にわたり環境教育の普及啓蒙に努めている。 （講演） ・2002年6月1日（長野県佐久市青年会議所主催の「ふるさとビオトープ～自然を愛することからはじめよう～」 ・2005年9月21日（『愛・地球博』の「エコ・パートナーシップフォーラム」） （取材） ・2004年2月20日（環境goo「 ビオトープをつくって、生き物と友だちになろう」。） ・2006年10月17日（NHK首都圏ネットワーク）

県　別	氏名・職業	功　　績
中部事務所	服部　宏 はっとり　ひろし 環境カウンセラー	三菱レイヨン在職中は、化学プラント設計の過程において、環境対応を行い、また安全環境品質部長として、事業者の環境保全対応に力を注いだ。その当時から環境カウンセラーとして登録し、愛知環境カウンセラー協会の設立に参加し、世話人としての活動を続けた。平成14年には同協会の代表となり、NPO法人化に尽力し、会長を4年間務めた。中部地方環境事務所や愛知県、名古屋市等の自治体とも連携し、各種環境保全活動を支援する組織へとまとめ上げた。愛知環境カウンセラー協会を母体とする「エコアクション21地域事務局あいち」を平成18年6月に立ち上げ、その事務局責任者として、エコアクション21認証・登録制度の普及を通して地域の環境保全に努めている。 平成17年の愛・地球博覧会においては、愛知環境カウンセラー協会として、会員30数名の参加を呼び掛け団体活動するとともに、自らキッズエコツアーガイドとして9日間、小中学生に環境保全の基本的事項の解説を行うなど、青少年に対する環境教育にも熱意を持って行っている。 また、中部地方環境事務所が平成19年度に実施した「環境カウンセラー研修」においては、それまでの経験を基に環境カウンセラーの活動と題して講師を行ったほか、中部地方環境事務所が平成20年度に初めて開催した「エコアクション21認証・登録制度に関するセミナー」においては、プログラム作成や講師の選定等の準備及び当日の進行に協力するなど、中部地方環境事務所の環境保全活動に対して積極的に参加し活躍している。
中国四国事務所	福留　正治 ふくとめ　しょうじ 特定非営利活動法人 岡山環境カウンセラー協会会長	平成10年、中国四国地域のトップを切って県単位組織である岡山環境カウンセラー協会を設立。草創期を幹事長として切り盛りした。 平成13年には、環境カウンセラー全国連合会の創設にも尽力し、その後常務理事を務めた。 平成14年5月、岡山県協会の会長に推され、名実共に協会の顔として辣腕をふるい、生涯学習講座や学校への講師派遣、事業者を対象とした「企業環境塾」を開催してきた。 平成16年に岡山県協会を法人化し、特定非営利活動法人岡山環境カウンセラー協会として組織を完成させた。 法人化とともに環境省本省（循環型社会地域支援事業）や中国四国地方環境事務所（環境カウンセラー研修等）、岡山県（こどもエコクラブ交流会、海と川の環境学習、エコカレッジ青年層環境学習ほか）等の普及啓発事業を長年にわたって多数受託運営して多大な成果をあげており、環境ボランティアの第一人者として指導力を発揮している。 また、公的にも平成14年以降、津山市クリーンセンター建設検討委員会、倉敷市環境審議会、農林水産省の中国四国バイオマス発見活用協議会の委員を務めるなど、地域社会にも貢献している。 特に、平成20年からは岡山県の主催する環境団体の連携組織「環境学習協働推進広場」運営委員長として岡山県内での環境保全活動を束ね推進するなど、その功績は顕著である。 平成16年からは岡山県地球温暖化防止活動推進員に委嘱され、地域協議会役員としても活躍するとともに、多数の普及啓発イベントに参加して自ら率先して活動していることが評価され、平成18年に岡山県の環境大賞（知事表彰）を受賞した。 現在も高い見識を生かし、産学官連携による環境保全活動の推進に尽力しており、地域における環境保全の功績は高く評価されている。